

## 邑久光明園コレクション展 I 風と海のなか

本展は、瀬戸内市にある国立療養所邑久光明園で暮らす、あるいはかつて暮らしていた人々6名の芸術活動を紹介する展覧会です。作品を通して、これまで十分に共有されてこなかったハンセン病療養所の一つの側面に触れる場をつくることを目的としています。

「コレクション」とは、美術館や組織、あるいは特定の個人によって収集・保存され、制度的に管理されるものを指します。その中で、本展の出品作品は、そのような回路から長く切り離されてきました。今回展示される作品の半数以上は、美術館や公的機関によって保存されてきたものではなく、個人の手によって守られてきた、いわば「私」の領域に留まり続けてきた作品です。

本展覧会の企画は邑久光明園社会交流会館（国立療養所邑久光明園）によって行われました。しかし、そのコレクションの半数以上は、個々の人々の大切な作品です。つまりそれらは、今日まで続くハンセン病による差別、偏見の最中を生き抜いた人々が、「失ってはならない」と胸に抱きかかえるような形で、それぞれの想いを持ち、個人的に保存していたものです。本展は、それらを借り受けることで成立しています。この事実は、ハンセン病療養所をめぐる芸術や生活の記録が、いかに長い間、制度の外側に置かれてきたか、そしてその継承がどれほど遅れてきたかを示しています。そういった意味で、本展は、通常のコレクション展とは異なる背景のもとで成立しています。

本展の作品の詳しい解説は会場内の「作品を見るための優しいガイドライン」も参考にご高覧頂ければ幸いです。また、国立療養所邑久光明園や国立療養所長島愛生園をはじめ、全国の療養所には、いまだ語られず、展示されることのない芸術作品が数多く残されています。本展は、その全体像を示すものではありません。むしろ、なぜそれらが今なお「眠ったまま」なのかを問いかける展覧会です。

企画:邑久光明園 社会交流会館